

南あわじ市 平成 21 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 327

事業名	敬老会		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	長寿福祉課		款	民生費・3款
電話	0799 - 44 - 3035			項	社会福祉費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	老人福祉費・3目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり__元気あふれ__住んで快適なまちづくり__			
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命__[健康]			
	施策目標	高齢者の生きがい活動や就業の場、癒し・消費の場を広げる			
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 市内に住む70歳以上の者 対象人数(人) 11,264 意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 長年にわたり社会に貢献された高齢者に敬意を表し、長寿をお祝いする。
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 旧町単位で4会場において実施した。 午前中は式典(高齢者表彰、高齢者表彰、金婚夫婦の表彰等)午後はアトラクション スタッフ等については各種団体に協力を依頼する。 対象者への案内は、市の広報及び各種団体(婦人会・シルバー人材センター・老人ク ラブ)に依頼又は郵送により案内を通知する。会場へは送迎バスを配車する。
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 合併以前は、旧町で数箇所で開催していたが合併後は旧町単位の4会場で開催してい る。 対象者の要望としては、合併以前の地区単位での実施を希望しているが、市としては 費用削減に向け1会場に向け検討しているところである。
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 70歳以上の方を対象に、旧町単位での実施とした。 協力団体については、旧町の状況を重視する。	

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	参加者数				指標単位
						人
	指標説明 (指標算出 方法等)	対象者(70歳以上)の対象者に対し何人参加いただけたか				
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	目標値	10,874	11,087	11,172	2,253	2,270
	実績値	2,214	2,010	1,662	2,162	2,043
	達成度(%)	20.4	18.1	14.9	96.0	90.0
目標値設定 の考え方	対象者(70歳以上)全員を参加の目標としていたが大きき下回っているため平成21年度は対象者の20%を目標とした。 21年度は対象者、11,264人(22年度11,354人) なお、平成18年度は台風により中止であったため参加申込者数を実績値に計上している。					
資源配分 (インプット)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	直接事業費 (千円)	3,044	8,698	7,396	8,615	8,583
	報償費	15	332	242	242	200
	需用費	1,962	4,361	3,852	4,558	4,562
	役務費	5	87	268	413	131
	委託料	510	1,063	791	808	1,071
	使用料及び賃借料	552	2,855	2,243	2,594	2,619
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	3,044	8,698	7,396	8,615	8,583
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	29.9	30.1	27.9	28.2	28.2
	事業量1(事業に要した日数)					
事業量2(事業に要した人数)						
年間経費([A]+[B])	3,044	8,698	7,396	8,615	8,583	
「目的」対象人数1人当り経費 (円)	270.2	772.2	656.6	764.8	762.0	
経費に関する 補足説明	平成22年度も現状の4会場での経費を計上している。					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
達成度	目標達成度	%	20.4	18.1	14.9	96.0	90.0
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 対象者に対して参加率が、14.9%と大幅に落ち込み、年々減少傾向にある。 要因は、アトラクションの内容また、会場及び会場の設備もあるが、敬老会自体が対象者に馴染まなくなったのではないかと考える。						自己評価 (5点評価)
							2
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 会場に来て旧知の知り合いと出会うことに楽しみを感じられているのであって、特に式典を楽しみに思われている方は少数のように思われる。						自己評価 (5点評価)
		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
効率性	事業単価	円	270.2	772.2	656.6	764.8	762.0
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 敬老会対象者(11,172人)に対する費用としては高くはないが、出席率の低さを勘案すると効率が悪くといえる。						自己評価 (5点評価)
							2
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 長年にわたり社会に貢献された高齢者に敬意を表し、長寿をお祝いしなければいけない。						自己評価 (5点評価)
							5
総合評価	自己評価をふまえた現状分析						
	<p>地区での寄り合いのような敬老会を求めており、大きな会場で大勢の参加による敬老会を求めている人が多くいると感じる。</p> <p>しかしながら、コスト面等を考えると会場を増やすことができないため、どうしても参加者が増えず評価は下がってしまう。</p>		<div data-bbox="821 1541 1388 2116" data-label="Figure"> <p>評価グラフ</p> </div>				

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成22年度にできる改善・改革	平成23年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>より良い敬老会のあり方について検討しているが、平成22年度も前年度を踏襲して開催する。なお、開催にあたっては各科目にわたって経費節減に努める。</p>	<p>引き続き、より良い敬老会のあり方について、関係団体等と検討していく。</p>
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 年に一度の高齢者を敬う行事は必要である。 中止すると高齢者からのかなりの反発が予想される。	